

共生のひろば

博物館では、「ひとはくセミナー」、毎年県下10地域で実施している「ひとはくキャラバン」、皆さんとともに自然環境を探る「リサーチプロジェクト」また子どもたちの科学離れをおしとどめて理科好きに変える「理科大好きスクール」・「教材開発グループ」・「夏季教職員セミナー」などを通してさまざまな講義・実習・セミナーを行っています。また一昨年山東町でスタートした「地域研究員ステップアップセミナー」とそれに続く「特設セミナー」では、地域の人々自らが興味をもったテーマをひとはく研究員とともに解決する仕組み作りを進めています。

これらさまざまな分野にわたる自然環境学習プログラムの目的は、地域の自然・環境・文化に根ざした「生涯学習」のテーマの発掘とその取り組み方をみなさんとともに具体的に探ること、また先生方を通して生涯学習の楽しさを子どもたちに伝えてゆくことです。

NPO法人・人と自然の会との連携活動は一昨年10周年を迎え、昨年「東中国クマ集会」「ガキっこクラブ」「関西ワイルドライフ研究会」「テネラル」「run♪run♪plaza」「希少植物研究会」「鳴く虫研究会 きんひばり」「みやまあかね委員会」「三田プレーパークプロジェクト」など県下の自然環境の調査・研究を基礎としてその保全に向け活動する、またそれらを実現するために人と人の繋がり的发展に向け活動する、グループが新たに加わり、現在10の連携活動グループとともに「人と自然・人と人の共生」に向けてさまざまな活動を展開しています。

ここで県下に散在しながらもひとはくと協働して活動するグループの顔をお互いに知っておくことが、それぞれの活動を継続するためにも、活動の質を高めるためにも、また新たな切り口での展開にあたって必要ではないかと考え、地域研究員および連携活動グループの発表・交流会「共生のひろば」を2006年2月11日に開催しました。

はじめに「しぜん・あそび・けんきゅう」という題で河合雅雄名誉館長にお話しいただき、緊張しつつも楽しい発表会が始まりました。「六甲アイランド高校の謎のタンポポ」



参加者の熱気あふれる会場

「タンポポ調査から姫路の環境を考える」「深田公園の鳴く虫マップ」「原色昆虫少年図鑑」「南あわじの化石再発見」「中学生科学部員によるチスジノリを甦らせる活動」「メダカは空を飛べるか」「カジガエルが住める川」「アオバズクの食卓」「新修火の鳥会流 国領地区の町おこし裏舞台」「ママが育むジュニアナチュラリスト」「ホップ・ステップ・花工房」「自然と遊ぶ・手作り工作」「みつばちと花と人間と」「里山へ飛び出そう」

「六甲山生活文化史」と続き、外部からの刺激としてNPO法人やまと自然と虫の会の写真家伊藤ふくおさんに「大台ヶ原自然再生事業」についての話題提供をしていただきました。最後に岩槻邦男館長から「知る・伝える・輪となる、よろこび」と題して、生涯学習とはほんとは面白いものだというコメントと総評を戴きました。専門化・細分化した現在のいわゆる「学会」では想像できないほどバラエティーに富んだ活動分野・対象・方法の発表内容で、あえて表現すれば「共生博物学」と呼ぶべきものでした。



ポスター・作品発表会場

ポスター・作品発表においても「とっておきの植物画」「サギソウに魅せられて」「自然をあそぶ、しらべる、まなぶ」「超能力(植物)で生まれている私たち」「みつばちと花と人間と」「煌星(きらぼし)に夢と希望を託して」「迷蝶ウスコモンマダラ」「鳴く虫ワールド」「動物の残した生活の跡は、自然からのメッセージ」「ハヤブサの落とし物」「ニホンジカ骨格標本のできるまで」「自然を封入する」「私の封入標本」「足立式プラスチック封入標本」「千種川の体温測定」「山東町の生きものマップ」「みやまあかねと

ゆかいな仲間たち」「ママが育むジュニアナチュラリスト」「骨はいきいき 教材に甦らせる骨格標本」とこれまた主題やストーリーが一見汲みとれない力作が並びました。

連携活動グループまたひとはく地域研究員の活動対象・活動内容は実にさまざま、一見お互いに関係に見えるかもしれませんが、21世紀の環境優先社会の実現とは、これまでグローバル経済優先社会が崩壊させてきた私たちの生活環境を再創造することがポイントであり、生活環境の再創造とは「人と自然との繋がり」「人と人の繋がり」「お金の流れの仕組み」を新たに紡ぎなおすことであるという鳥瞰的な視点からはお互いの共通項を見出せたのではないのでしょうか。共生のひろばに120名以上の方が参加され、過密状態のプログラムでしたが、会場の聴講者が歯抜けになることはありませんでした。

ちなみにアンケートでは、発表の内容がバラエティーに富んでいたのも、全部興味を持って聞くことができました・いろいろな活動、立場の方の思いのこもった意見や取り組みが聞けてとてもよかったです。という感想を戴くとともに、盛りだくさんでお腹一杯です・件数多くて聞く方は大変だ・発表時間が短い・発表件数が多すぎてじっくり聞けないし、質問や意見交換などが忙しい・お話が全方向に広がり、バラバラ感も少し感じます・統一テーマやキャッチフレーズがあったほうが良い、という意見も戴きました。

(シンクタンク事業室 田中哲夫)